

大網ロータリークラブ

Club Weekly Bulletin

■クラブ創立:2000年1月13日

■例会日:第1 - 第3水曜日(12:30~13:30)

■例会場:中部コミュニティセンター

TEL0475-73-3337 FAX73- 4360

■事務所: 〒299-3251

大網白里市大網450-6 ユアサビル2階

TEL0475-70-0200 FAX70-0222

■会 長:小倉 光夫 幹事:石田 英世

■広報・公共イメージ向上委員会

委員長 大越 将司・会報担当 石田 英世

000000

<u>2022 年 5 月 18 日(水)</u> 第 23 巻 第 16 号

通巻第981

http://www.oamirotary.com E-mail rc@oamirotary.com



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

本田の例会

点 鐘 会長 小倉 光夫 ソング それでこそロータリー 会長挨拶 会長 小倉 光夫 幹事報告 幹事 石田 英世 プログラム 市出前講座 都市整備課

「都市計画によるまちづくり」



無し

| 例会日 | 5月11日 | 4月20日 |
|-----|-------|-------|
| 会員数 | 30 | 30 |
| 出席 | 15 | 18 |
| 欠 席 | 15 | 12 |
| MU | 3 | 1 |
| 免除 | 4 | 4 |
| 出席率 | 73.33 | 76.67 |

会長挨拶



皆さんこんにちは。

月弱となりました。

5月に入り小倉・石田年度も残すところあと2カ

小倉 光夫 会長

残された時間は少ないですが頑張ります。

さて、先日の地区協議会に於いて私の出席したロータリー財団での話ですが、ウクライナ支援で活躍する日本人女性の記事がロータリーの友に出るので是非見てくださいとの事でした。ちょうど本日、ロータリーの友が届いておりまして、拝読したところその記事をみつけましたので、別の原稿を用意して来たのですが変更してお伝えしたいと思います。

その方は、井上悦子さんです。ロシアがウクライナへ侵攻する2日前まで国際移住機関 (IOM) のウクライナ事務所でまさに復興支援や避難民・被災者への支援を行っていたそうです。現在もリモートで支援を継続しているという事です。この方がなぜロータリーに関係があるかといいますと、奨学金にて運営されている「ロータリー平和センター」の卒業であるからです。平和を構築する為に専門的な知識を教え国際機関等で活躍してもらうことを目的としているそうです。日本人の平和フェローはまだまだ少ないようですが、日本人をもっと増やして行きたいと委員会で話されていました。詳しくは私のような浅学よりもロータリーの友をご覧頂きますようお願い致します。

5月奨学金授与式・ひすいかい子ども食堂寄付金贈呈





第8回理事会報告

石田幹事より

1. 協議・報告事項 行事予定

ひすいかい子ども食堂の支援について

第1回開催 5月22日(日) 配布時間 11:00~13:30 支援金 30,000円(5/11済) 食材など協力のお願い

<5月以降開催日>

- ●第2回開催 令和4年11月27日(日)
- ●第3回開催 令和5年 1月22日(日)
- ●第4回開催 令和5年 3月26日(日)

【今後の予定】

- 1. 開催月に市内集合住宅1340世帯×4回 をポスティング
- 2. 5月・11月に市内区長回覧にて回覧板 で周知(1600世帯×2回)
- 3. 前年同様ロータリークラブの活動を裏面に印刷した新聞折込を入れるのであれば、小髙年度の11月か1月に検討

【費用】

チラシ印刷(10,000 部): 30,498 円 1. ポスティング代: 58,960 円 (14,740 円×4) 2. 0 円

3. チラシ印刷 (7,000 部) : 20,918 円 ※新聞折込代はクラブ負担

セミナー会議及び今後の行事予定

1. 新旧・会長幹事会開催

日時:2022年5月13日(金) 受付:17:30 開始:18:00 会場:一宮シーサイドオオツカ

登録料:10,000円

出席者:小倉会長、石田幹事

小髙会長エレクト、髙山副幹事

2.3クラブ合同親睦ゴルフコンペ開催

日時:2022年5月30日(月)

会場:山田ゴルフ倶楽部

集合時間:8:30

プレー費: 13,500円(昼食、ワンドリンク、 キャデイ付き)

会費:2,000円

懇親会費:6,000円 くらや

横芝光町栗山 4387 TEL: 0479-82-1429 参 加 者:泉恵子会員、加藤洋三会員、長谷川正行会員、星野実会員、清宮建治会員清宮満巖会員、吉原久男会員、小髙徹会員、関谷清一会員、石田英世会員、高野祐二会員

3. 佐倉中央R C創立 25 周年記念式典

日時:2022年6月18日(土)

登録開始:14:00

会場:ホテル ザ・マンハッタン

登 録 料:20,000円 クラブ負担 5/11 送金

出席者:石田幹事、髙山副幹事 4.フェアウェルパーティ開催

日時:2022年6月24日(金)

受付:16:30 開会17:00~19:30 会場:ホテルニューオータニー 幕張 2階

登録料:お一人 15,000円 5/11 送金

出席者:小倉会長、石田幹事

占 会員卓話



四之宮 由己 会員 「モンテンルパの夜は更けて」

昭和27年6月のこと、このやるせない心を抉るような歌が大ヒットした。「何の歌だろう?」いぶかった人々も直ぐに知ることとなった。この歌はフィリピン、マニラ郊外のモンテンルパ刑務所の死刑囚の作った歌だったのだ。作詞がB級戦犯死刑囚:代田銀太郎元大尉、作曲がB級戦犯死刑囚:伊藤正康元大尉、歌ったのが「支那の夜」や「何日君再来」などを歌った渡邊はま子。この歌はモンテンルバ刑務所の教誨師加賀尾秀忍から送られてきたものだった。戦後7年も経過し、サンフランシスコ講和条約から1年もたって、A級戦犯も免責されんとしている時、まだ異国で処刑されていくBC級戦犯がいることを知った渡邊はま子は驚愕し、レコード化に奔走して、遂に大ヒットさせたのである。これにより、自分の生活に追われていた日本人の多くが悲愴な現実を知ることとなり、集票組織の無かった当時としては異例の、500万という助命嘆願書が集まったのであった。

戦時中の慰問で自分も戦意を煽ったためと感じた渡邊はま子は、どうしてもモンテンルパに行って謝りたいと思い、渡航の困難だった時代に手を尽くしてフイリピンへ渡った。当然フイリッピン政府からビザなどおりない。単に戦犯の慰問というだけでなく、終戦時には宣撫慰問の途中で中国で虜囚となり一年も収容所に入っていた女性である。許可など出る筈もなかった。それでも渡辺はま子は香港に向けて出発して行った。香港経由でフィリピンに強行入国しようというわけである。たとえ逮捕されて、戦犯と同じ刑務所に入れられようとも・・・

昭和27年12月24日、歌手・渡辺はま子の歌がモンテンルパのニュービリビット刑務所の中を流れた。熱帯の12月。40度を超す酷暑の中で、渡辺はま子は振袖を着て歌った。もう随分と長い間見たことがなかった日本女性の着物姿は、死に行く者への別れの花束だった。この歌は、この刑務所の死刑囚達が作詞作曲したものである。この歌が流れると会場の中からすすり泣きが聞こえた。会場にいたデュラン議員が、当時禁じられていた国歌「君が代」を「私が責任を持つ、歌ってよい」と言った為、全員が起立して祖国日本の方に向い歌い始めた。多くの人は泣いて声が出ず、泣き崩れる者もあったようだ。そして、この「ああモンテンルパの夜は更けて」は、これらの人々を救い出す事になったのである。

昭和28年5月、教誨師加賀尾秀忍のもとに渡辺はま子から一つのオルゴールが届いた。 曲は「<u>ああモンテンルパの夜は更けて</u>」だった。オルゴールの音色は心を抉るような響きをもっていた。 そのころ、加賀尾はやっと時のキリノ大統領に面会する約束を取り付けることが 出来た。初対面の挨拶と、面会の時間を貰えたお礼の後、加賀尾は黙って大統領に例のオルゴ

ールを差し出した。加賀尾の涙ながらの助命嘆願と、 哀訴の言葉を予想していた大統領はいぶかったが、オ ルゴールを受け取って蓋をひらいた。流れ出るメロデ ィー。暫く聞いていた大統領は「この曲はなにかね?」 加賀尾師は、作曲者がモンテンルパの刑務所の死刑囚 であり、作詞をした者もまた死刑囚であることを語っ て、詞の意味を説明した。尚もじっと聞いていたキリ ノ大統領は、漸く自身の辛い体験を語り始めた。

大統領自身も日本兵を憎んでいたし、日米の市街戦で妻と娘を失っていたのだった。「私がおそらく一番日本や日本兵を憎んでいるだろう。しかし、戦争を離れれば、こんなに優しい悲しい歌を作る人たちなのだ。戦争が悪いのだ。憎しみをもってしようとしても戦争は無くならないだろう。どこかで愛と寛容が必要だ」

死刑囚を含む全ての BC 級戦犯が感謝祭の日に大統領の特赦を受けて釈放され、帰国が決まったのは、翌月の6月26日のことだった。横浜の埠頭で帰国の船を待ちわびる群衆の中に、渡辺はま子の姿があった。

(-)

モンテンルパの 夜は更けて つのる思いに やるせない 遠い故郷 しのびつつ 涙に曇る 月影に 優しい母の 夢を見る

 $(\underline{-})$

燕はまたも 来たけれど 恋しい吾が子は いつ帰る 母の心は ひとすじに 南の空へ 飛んで行く さだめは悲しい 呼子鳥

 (Ξ)

ー・ モンテンルバに 朝が来りゃ 昇る心の 太陽を 胸に抱いて 今日もまた 強く生きよう 倒れまい 日本の土を 踏むまでは